

平成22年度 府立河南高等学校 学校評価報告書

1 めざす学校像

地域に根ざし、グローバル化に対応する自立した生徒を育成する『Global Community School』を実現する。 2年後に迫った創立100周年を視野に入れ以下の3つの教育方針を柱とする。 ① 生徒の成長に責任を持つ教育 ② 知・徳・体バランスのとれた教育 ③ 学校、家庭、地域が連携し個に応じた丁寧な教育の実践

2 本年度の教育目標

・授業力の向上（熱意・創意を持った授業の実現） ・第一志望を実現する進路指導（希望進路の実現） ・規律ある学校生活（時間・ルールの厳守） ・安全安心の学校づくり（リスク管理体制の充実）

3 本年度の取組計画及び自己評価

領域	具体的な取組計画 [平成22年 5月 記入]	取組状況の自己評価	今後 進めたい取組み
(1) 学習指導等	学力向上を最重点課題として位置づけ第一志望の進路実現に取組む。 ① 新たな取組の実践 教科、学年で教員相互の連携を図り、生徒を共通認識し社会変化に応じた新たな取組を実践する。 ② 授業力向上 分かりやすく心に響く授業を目指し授業アンケートを活用、授業見学、他校への研修を実施する。 ③ 図書館活用（読書指導） 調べ学習、授業活用により図書館を利用して学力向上を図る。 ④ ICT機器の活用及び教材整備により多様な授業を展開する。 ⑤ 学年・進路指導部が一体となり希望進路を実現する。	<input type="checkbox"/> 新たな取組 ・新たな専門コースである教育コース（Eコース）の24年度申請に向け、新カリキュラム委員会を24回開催して教育コースのカリキュラムを検討し教育系大学との高大連携につき学校全体で推進した。 ・理数系教育の向上に向けSPP（Science Partnership Project）事業を立ち上げ大阪市立大学理学部の協力を得て実現した。 <input type="checkbox"/> 授業力向上 ・21年度に一部試行した授業アンケートを今年度より全教科で実施して生徒の理解度や興味を知り授業改善に活用した。 ・進学に向けた授業力向上の向け若手教員を代々木ゼミの公開授業に派遣した。 <input type="checkbox"/> 図書館活用 ・『平成22年度図書館の有効活用に関する研究実践校』に指定され貸出冊数の増加及び授業の調べ学習利用により読書活動が活性化した。 <input type="checkbox"/> 学校が一体となった進路指導態勢 ・進路指導部と3年生担任団が協力してセンター入試受験を指導したところ182名が受験し前年比倍増した。 ・その結果、生徒の進学希望が多い関西大学64名、近畿大学135名が合格しこれまでにない進学実績を残した。	<input type="checkbox"/> 新たな専門コースである教育コース（Eコース）を立ち上げ本校生徒のなりたい職業NO1の教員を養成し地域の教育に貢献する。 <input type="checkbox"/> 授業力向上に向け指導教諭による授業改善と他校への研究授業派遣を行う。 <input type="checkbox"/> 使える英語プロジェクトを実践するため『実用英語検定2級・準2級』の合格者倍増の取組みを実施する。
(2) 生徒指導等	自立した集団づくりを教職員・保護者が一体となり推進する。自治会活動を通じて本校のモットーである「絆」を深め学校行事等、協力して成し遂げる経験を積ませる。 ① 学校生活の基本である遅刻防止（時間厳守）を生活指導の重点課題として取り組む。 ② 制服指導、頭髪指導を通じて風紀面から規律ある学校生活を守る。 ③ クラブ活動を通じて体力・情操面の向上を図り併せて授業と自学・自習に取り組む習慣を確立する。 ④ 生徒の健康管理及び薬物乱用防止教室の実施により心身ともに健康な人格形成を推進する。	<input type="checkbox"/> 生徒指導 ・生徒自治会が正門で遅刻防止を呼び掛ける遅刻防止旬間を2回実施した。加えて服装・頭髪等風紀面の呼びかけも行った。その結果、年間の遅刻者数が前年比約20%減少した。 ・制服、頭髪は概ね良好である。生徒から冬季のカーディガン着用の強い要望があり河南として統一した形で検討中。 <input type="checkbox"/> クラブ活動 ・運動部3部、文化部1部が近畿大会に出場したが他にも公立大会や地区大会で優勝するなど部活動が活性化している。 <input type="checkbox"/> 健康管理 ・健康管理、事故防止のため健康上課題を抱える生徒の情報共有を徹底した。また、薬物乱用防止教室を実施し、絶対に薬物に手を出さない意識を醸成できた。	<input type="checkbox"/> 人との絆を大切に基本的生活習慣を確立させる。引き続き生徒自治会による遅刻防止（時間厳守）と服装・頭髪等風紀を守る取組みを行う。 <input type="checkbox"/> 冬季の防寒用に学校指定のセーター或いはカーディガンを制定する。
(3) 学校運営等	学校の自主的、自立的な特色づくり推進し、さらなる学校教育の活性化と充実を行う。そのために、以下の3点を基本方針として河南高校のあるべき姿、未来への方向性を示し教職員の意識改革を図る。 ① 生徒・保護者・地域に開かれた学校づくり ・保護者、学校協議会等外部の意見を学校経営に反映する。 ・地域外部団体との連携を深める。 ② 生徒の安心・安全を第一にしたさらなる危機管理体制の構築 ③ 授業力を中心とした教職員の資質向上 ・各種研修講座、公開研究授業、他校の視察研修等積極的な研修を推進する。 ④ 校内美化と環境整備	<input type="checkbox"/> 開かれた学校づくり ・学校評価の保護者アンケートにより学校に対する要望等を把握できた。また学校協議会で大学等の外部教育機関の委員や同窓生の委員から客観的かつ有意義な意見を聴取できた。 <input type="checkbox"/> 安全安心の学校づくり ・生徒の事故防止に向けて健康上の課題を担任、体育科、部活顧問で共有し事故対策を実施した。 ・教育相談担当と担任、養護教諭で抑うつ傾向がある生徒にチームで対応し丁寧なケアができた。 <input type="checkbox"/> 教職員の資質向上 若手教員を代々木ゼミの受験に関する研究授業に派遣した。また、新規採用教員を一般企業に派遣し実地体験をさせた。 <input type="checkbox"/> 校内美化と環境整備 保健委員と生徒自治会、クラブが交代で校外の清掃を定期的実施した。校舎施設整備については予算の制約があるものの『創立100周年の記念事業』として視聴覚教室の多目的ホール化や同窓会館のリニューアルを行い同窓生や地域への開放を行うと共に教育活動の充実に向けて環境を整える。	<input type="checkbox"/> 河南生がもっと学習・部活・行事・地域活動・国際交流で生き生きと輝く仕掛け作りのため『Kanan輝きProject』を立ち上げる。
(4) 追加項目	国際交流を推進する。	<input type="checkbox"/> 韓国の教育視察団を受け入れ交流を通じて韓国の厳しい教育事情を知り生徒達に良い刺激になった。	<input type="checkbox"/> 留学を視野に入れた国際交流

4 学校教育自己診断における結果と分析

[平成22年11月実施分]

＊実施対象（ <input type="checkbox"/> 教職員 ・ <input type="checkbox"/> 児童・生徒 ・ <input type="checkbox"/> 保護者 ・ <input type="checkbox"/> その他） 有効回答（生徒991名、保護者517名、教職員30名） 前回に比べ、今回の自己診断における有効回答数は、ほぼ倍増した。その内容で生徒は『学校へ行くのが楽しい（76%）』、『クラブ活動に積極的に参加している（87%）』が高く、『授業が分かりやすい（47%）』、『補習・講習が充実している（44%）』、『平日家庭では、宿題以外の家庭学習をしている（34%）』、にやや課題が残る。また、保護者も『学校の雰囲気がよく生徒がいきいきとしている（88%）』が高く、『災害における行動マニュアルが示されている（73%）』の評価が改善した一方、『子供の進路に安心している（29%）』と低く、不況による大学の就職率低下を心配する声も多い。部活や行事で学校生活を充実させると共に組織的な学力向上の取組を通じて第一希望を実現する進路指導に全力を傾ける方針である。
--

5 学校協議会における提言内容

＊実施日 第1回（10月8日）第2回（2月18日）第3回（—） ＊委員構成 安田正純（大阪大谷大学）吉川測雄（東大阪短大） 宮崎静史（富田林二中）植條則夫（同窓会長） 恵島 明（榊えじま代取、同窓生）福井久美子（PTA会長） ＊内容 ・国際化に対応できる教育活動・クラブのさらなる活性化・自己アピールできる生徒を育てる支援策・運動系クラブの中高大連携の模索・自学自習の仕掛け ・保護者と教師の連携を深め子供を育む取組み・『河南の良さ』を維持しつつ『時代を先取りする』取組み 上記の諸提言に対して、地域に根差しながらもグローバル化に対応できる生徒を育成するため、①実践的英語教育の推進 ②新たな専門コース『教育コース』の創設 ③SPPに始まった科学教育の充実を説明し実施に向け学校協議会委員の理解と協力を確認した。
